

## OPINION

### 雑感

### 「プロか、アマチュアか。誰が決める？」

#### 『旅行が職場とは、何と素晴らしい!』

昭和53年(1978年)、当時の(株)日本交通公社に入社した頃、私はそう思っていました。が、それから今日まで40年足らずの間には「こんなに辛い仕事は他にない。」「やっぱりこれほど面白い仕事はない。」を何度も繰り返しました。そして今、結論(たぶん最終です)。

『旅行が職場であるこの仕事に就いて、本当に良かった。』

私が入社した頃、添乗員は社員が務めていました。「大旅行時代」の訪れとともに、添乗員付きツアー本数が増え、より専門性が求められ、加えて旅行会社は営業担当者のセールス時間確保のためにも、添乗専門者に委ねるようになりました。

#### 「添乗員」の起源

以前下記のような記事を読んだ記憶があります。

「江戸時代には、伊勢神宮の神官がお参りに来る庶民の案内をして、添乗員のように宿や食事の手配までしたという記録が残っている。」「添乗員という呼び名の語源が、鉄道用語であることは殆ど知られていない。列車の運転手の横に座った助手のことを添乗員と呼んだのと同じように、旅行同行係員を添乗員と呼ぶようになったようだ。」一般的に日本の旅行の始まりは、平安時代の、京都や奈良から信仰の場とされていた熊野三山へ詣でる旅と言われています。「添乗員」という仕事はとても歴史のある職業のような気がしてきます。添乗員の皆さんも我々もプライドを持って良いと思います。

#### プロとアマチュア

弊社の添乗員に対して、多くのお客様、派遣先、関係機関の方々からお褒めの言葉をいただきます。しかし、時々厳しいご指摘・苦情もあり、これが無くなりません。人材育成の責任は派遣元の会社にあります。毎年、成果と反省を皆で議論し絶滅のために取り組んでいます。が、何か足りないのです。

最近、よく考えます。我々社員も添乗員の皆さんも「プロとアマチュアの違い」を真から認識していないのではないかと、しているとしたりずれているのではないかと。

- ・労働して対価を受け取る者は皆プロなのではないか。
- ・全ての添乗員、社員(私も含めて)はプロではないか。
- ・「プロの添乗員」とはどういう人をいうのでしょうか。それは、経験年数・

添乗日数・お褒めの数・正確で豊富な現地知識・確実な旅程管理・ご案内上手・ホスピタリティ・リーダーシップ・・・。

限りがありませんが、どれを、あるいはどの組合せがその要因と言えるのでしょうか。

・「添乗歴10年、日数2000日、業務知識豊富でお客様評価は普通」「添乗歴1年、日数100日、業務知識不十分でお客様評価は高い」よくあることですが、どちらをプロ添乗員と呼ぶのでしょうか。

一般社会と違って、スポーツの世界は明確で実に分かりやすいものです。資格や経験が無くても高レベルの専門能力さえ認められればプロ選手になれるますが、純粋に自身の技術のみが基準であるため、プロ意識は自分のみが最大限持てば良いのです。このように考えると、我々の社会(もちろん添乗員含む)に自分はプロだと胸を張れる人間はどれくらいいるのでしょうか。そして、その基準は何なのでしょうか。

私は、この業界において「プロかアマチュアかは、お客様が決める。」と思っています。添乗員にとってのお客様とは ①ツアー参加のお客様 ②派遣先(支店、旅行企画造成会社) ③関係諸機関(交通、宿泊、観光、食事等) ④社会全般(お見送り、一般旅行者、通勤客等)の4人のお客様達ですが、つまりは「自分の周りは全てお客様」ということです。

#### 『自分の周りが、自分のことを、プロかどうか判断する。』

「旅行が職場であることにやりがいを感じ、誇りに思う。」と添乗員の皆さんにもっとも言っていたように努力していく。これが私自身の役割であり、この点においてプロになりたいと思っています。最後に、以前先輩から教えられた言葉を引用させていただきます。

- ・アマチュアは、できない言い訳をする。プロは、できる方法を考える。
- ・アマチュアは、現在を起点に考える。プロは、未来を起点に考える。
- ・アマチュアは、上達すれば基本を卒業する。プロは、どんなに上達しても基本を卒業しない。
- ・アマチュアは、義務で仕事をする。プロは、喜びのために仕事をする。



(株)JTB サポートインターナショナル  
取締役 営業部長 TCSA 理事

渡辺 文雄氏

## CONTENTS

### OPINION ————— 1

雑感  
「プロか、アマチュアか。誰が決める？」  
(株)JTB サポートインターナショナル  
取締役営業部長 TCSA 理事 渡辺 文雄氏

### 特集 ————— 2

インバウンドスタッフ育成事業

### TOP INTERVIEW ————— 4

東武トップツアーズ株式会社  
坂巻 伸昭氏をお訪ねして

### TCSA REPORT ————— 6

今年も例年通り全国5地域で  
「地区連絡会」を実施しました

### TCSA REPORT ————— 7

添乗あれこれ～添乗の現場から～第9回  
2000日添乗員のゴツゴツ奮闘記 53

### TCSA だより ————— 8

フェイスブック (face book) を開設しました!  
「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2015表彰式」&  
「ツアーコンダクター職業フェア」開催予定  
会員動向 編集後記

# 特集！

## インバウンドスタッフ育成事業

### — 観光おもてなし検定制度の創設 —

#### 【多様化するインバウンド業務への対応】

TCSA では、厚生労働省から「業界検定スタートアップ支援事業」を受託し、「インバウンドスタッフ」の育成及び能力評価を行うための検定制度の構築を平成 27 年、28 年の2年間かけて取り組むこととした。

円安・東南アジア諸国のビザ条件緩和・世界遺産等の観光素材の充実等の追風を受け、訪日外国人旅客数が過去最高の 1,341 万人を記録した。今後も 2019 年ラグビーワールドカップや 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを控え、ますます訪日客の拡大が予想されることから、TCSA では今年度よりインバウンドスタッフの育成事業を行うこととした。

TCSA が会員を対象に行った調査によれば、インバウンド業務を取り扱っている会員が年々増えている。また、観光案内を伴ういわゆる「通訳案内士」資格が必要な業務のみならず、空港出迎え～ホテルチェックイン・JR 乗車のアテンド・国際会議や大会イベントの受付業務等の依頼が増えている。これ等の業務に従事するスタッフ、いわゆる「インバウンドスタッフ」の育成が急務となっている。

#### 【観光おもてなし検定制度の創設】

協会のこれまでの添乗員育成、活用ノウハウを最大限に活用し、訪日外国人旅行者のサポート役として日本が世界に誇る「おもてなし」を体現できる観光人材を育成し、その能力を測るための検定制度を創設することとした。

この検定制度の構築に当たっては、「インバウンドスタッフ」に求められる能力の洗い出しを行い、その能力を問うための試験問題やテキスト等を作成し、検定制度運営に向けた整備を行うこととしている。

訪日外国人に対する観光おもてなしスキルをはかる唯一の検定制度となることから、制度構築はインバウンドスタッフ育成の観点から進めていくが、実際の検定試験運用段階では、広く訪日観光に携わる従事者（通訳案内士、宿泊機関、交通機関、観光施設等）にも活用してもらえるような仕組みづくりを行っていきたいと考えている。

#### 【受託事業の主な内容】

- ①関係企業等に対するニーズ調査及び職務分析
- ②試験基準の策定、試験問題、採点基準の作成
- ③テキスト作成、教育・学習システムの整備、検討
- ④検定運営の実施体制の整備
- ⑤検定試験の評価者育成
- ⑥「観光おもてなし検定（仮称）」の試行実施
- ⑦関係企業、団体等に対する普及啓発セミナーの実施

## 【専門委員会の設置】

本事業を進める上で専門委員会を設置し、事業推進方針の策定や事業進捗の確認を行う。今後、問題やテキストの作成等、具体的な作業を行う「作業部会」を設置し、事業を進めていくこととしている。

委員会の委員長には初代観光庁長官の本保芳明氏が就任し、委員は関係団体や旅行会社、TCSA会員等下記の通り10名で構成しH27年6月16日に第1回委員会を開催した。

当日は、厚生労働省職業能力開発局から藤田職業能力評価推進係長及び観光庁観光資源課長崎課長も出席された。

## 【「観光おもてなし検定」委員会委員】

委員会	氏名	役職・所属
委員長	本保 芳明	元観光庁長官・観光庁参与
委員	小堀 守	独立行政法人 日本政府観光局 理事
委員	中村 裕	ホスピタリティツーリズム専門学校 校長、元ホテル協会会長
委員	興津 泰則	(一社) 日本旅行業協会 国内・訪日旅行推進部長
委員	座間 久徳	(株)JTB グローバルマーケティング&トラベル代表取締役社長
委員	池畑 孝治	KNT-CTホールディングス(株) 取締役事業戦略統括部海外旅行部長
委員	三好 一弘	(株) 日本旅行 国際旅行事業本部海外営業部部長
委員	清水 哲朗	(株) 旅行綜研 代表取締役社長
委員	三橋 弘	(株)TEI 代表取締役社長
委員	山田 隆英	(一社) 日本添乗サービス協会 会長

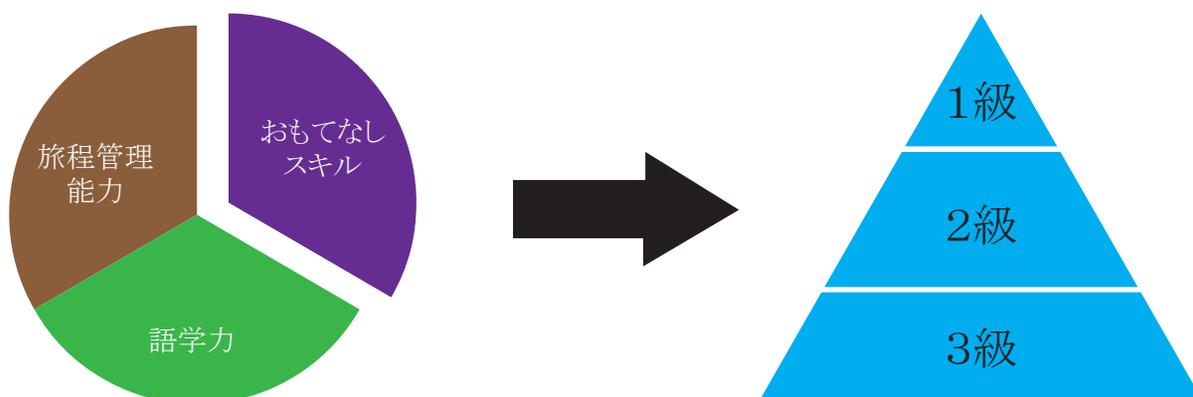
## 【作業部会の設置】

委員会は年3回程度開催を予定しているが、委員会の意向を受けて、作業部会では業務別に求められる能力・スキルを体系化し、テキストや検定問題を作成するワーキングチームとして機能する。

当検定制度では、3つの能力を問う予定で、まず第一に外国人とコミュニケーションを図るための「語学能力」、次に行程中、安全、安心な旅を提供するための「旅程管理能力」、3番目に訪日外国人が心から満足できる旅を提供するための「おもてなしスキル」を柱として、試験問題やテキストを作成する計画としている。

また、能力を測るための判断基準を3階層に分ける予定としている。

## 観光おもてなし検定



東武トップツアーズ株式会社 代表取締役社長 坂巻 伸昭氏

東武グループの旅行会社として、今年4月に東武トラベルとトップツアーが合併し誕生した「東武トップツアーズ」本社のある東京スカイツリーイーストタワーに、坂巻伸昭代表取締役社長をお訪ねしました。

### 三橋専務理事（以下敬称略）

此の度は素晴らしいオフィスへのご移転、誠にありがとうございます。まるで花屋さんのような胡蝶蘭づくしの入口にはびっくり致しました。この新会社社長に就任されたご心境について、まず伺わせていただけますか。

### 坂巻伸昭氏（以下敬称略）

私は東武鉄道で仕事をしてきて、旅行業歴は未だ4年弱の素人ですが、この業界に大きな夢を持って飛び込んできました。旅行というのは、人に夢を与えるものであり、非日常空間へ人々を運ぶことができる素晴らしいものと思っています。また、夢を持つことを常に心がけることで、どうしたらこの業界が良くなるか、あるいは、どうしたらお客さまの笑顔を見ることができかを常に考えています。旅行業は人が主人公であり、人が最大の財産です。人という部分にしっかりと焦点を当て、見ていくことが必要なのだと思います。



三橋 それが「東武トップツアーズ」のロゴの中心が“人”という文字になっている訳でございますね。



※新しいロゴは「ありがとう=Thanks」の「T」の連鎖と、「TOBU TOP TOURS」の3つの「T」で構成されており、白い部分は「人」。人のまわりに「ありがとうの連鎖を」導き出しましょうという会社の想いである。

## 「Warm Heart」と「ありがとうの連鎖を」

坂巻 今回、両社が合併をするにあたって最初に決めたことが、経営ビジョンと経営理念で、その集大成が「Warm Heart（温かい心で）」と「ありがとうの連鎖を」です。「Warm Heart」に込めたものは、旅行とは常に人と人が接するわけですから、温かい心が最も重要であり、お客さまから「ありがとう」と言って頂ける会社を目指していきたいとの想いです。大切なパートナーである旅館やホテルの方々がお客さまや弊社に「ありがとう」と言って頂けて、社員がお客さまや旅館、ホテルの方々に「ありがとう」と言える、そのような「ありがとうの連鎖」をするような仕事を続けていきたいというのが、弊社が目指している方向性です。また、鉄道事業を行っている東武グループとしては、「安全・安心・信頼」という3つのキーワードを非常に大切にしております。特にサービス業では、お客さまからの信頼を得ることが、非常に大切なことです。信頼を得るためには、お客さまが望んでいることを察知し、対応する行動ができる必要があります。

三橋 社員の方々が新しいことにチャレンジなさっていらっしゃると思いますが・・・。

**坂巻** 私が社員一人ひとりをお願いしていることは、皆さんが会社というステージで何を演じたいのか、つまり、夢を持って欲しいということです。与えられたこと、もしくはお客さまから言われたことをそのまま演技するのではなく、その中で自分を表現し、自分がやりたいと思うことをどのように実現するのか、考え実行することが会社にとって重要なことだからです。旅行に関わっている人には色々な人が登場します。例えば、ある場面ではお客さまに主人公になって頂く、また、ある場面では従業員が主人公になって頂く、あるいは、旅館やホテルの方々を主人公になって頂く、バスの運転手さんやガイドさんが主人公になって頂く、それぞれが主人公を演じることによって、一つの大きな旅行という物語が出来上がってくる。それ故、それぞれが夢を持つことが大切で、今回の主題である添乗員の方々にも夢を持って頂きたいですね。

**三橋** インバウンドにも力をいれていらっしゃいますね。

## ■ 地域の良さを商品化 — 東京スカイツリーが起点 —

**坂巻** 現在の訪日外国人旅行客の多くは、お客さまが直接 Web 等で手配をされるか、現地の旅行会社が企画された旅行で来日されるため、当社ができることは非常に限られています。それ故、海外拠点を作ることが必要であって、当社は、米国とヨーロッパに現地法人を、中国の北京と上海に駐在員事務所を持っています。また、7/1 付けてタイに現地法人を設立しました。そのような海外拠点から日本へ外国人を送ることで、日本におけるインバウンド旅行をしっかりとサポートしていきたいと思っています。そして当社は東武グループの一員ですので、東京スカイツリーを起点として、沿線の日光や鬼怒川地区にお客さまを誘導することが大きな目標であります。特に、地域をしっかりと商品化することがとても重要なことです。それぞれの地域の中に良さが沢山ありますから、当社が地域の人々と一緒に目線を合わせて地域の価値を引き出し、地域の良さを商品化できるようにすることが当社の大きな役割です。そして地域のそれぞれの良さを見出すことが、結果としてインバウンド旅行の振興に繋がると考えます。地域活性化の取組のひとつとして、小学生が自分の住むところの良さを自ら調べ、気付かせ、そのことを PR するというのを、学校の先生とタイアップした交流事業を行っています。

**三橋** ところで、「東武旅倶楽部」についてお聞かせ頂けますか。

**坂巻** 「東武旅倶楽部」というのは、「旅の原点探しをみ



んなで一緒にやりましょう」という倶楽部です。ただ目的地にお客さまをお連れするだけでなく、一つひとつの旅に対して、当社の企画者が物語や思いを込めたツアーです。「東武旅倶楽部」は誰でも入会できるため、おじいちゃんがお孫さんを連れてきたり、若夫婦とおじいちゃんとおばあちゃんと一緒にきたり、バラエティーに富んでいます。ただ行ってきましたという旅でなく、思い出を作り、何かきっかけを作ることができる、そのツアーに添乗員が付くことによって、企画者側の思いや商品の特色などを伝えることで、お客様の思い出作りに役に立っています。例えば、東京ドームでのジャイアンツ OB による解説・練習見学&記念撮影付の巨人戦観戦ツアーや、中山競馬場のロイヤルルームで一日中競馬をやっているツアー等、普段体験したくても体験できないことをする、つまり見方や見せ方を変えることによって旅の面白さが増えるツアーです。

**三橋** 将来、楽しみな会社でいらっしゃいますね。

**坂巻** そうですね。そういう意味ではみんなで色んなことを考えて、何が必要だ、何ができたらいいだろう、こうしたらいいなということを常に考えてもらえるような会社になりたいと思います。どうしても日本の会社は新しいことをやる時、まずできない理由を探し、チャレンジすることに否定的になりがちです。けれども、当社は出来ない理由を探すより、どうしたらできるか、場合によってはやってみなくてはわからないこともあり、その時は、「やってみなはれ」と言います。営業会社というのは、リスクのないところに利益はありません。リスクを認識して、そのリスクにチャレンジする精神というのは、やはり必要なことです。今後は、価値観のある、心を動かすことができる旅行をしっかりと作っていきたく思います。

**三橋** 本日は素敵なお話をありがとうございました。

## 今年も例年通り全国5地域で「地区連絡会」を実施しました

各地域における TCSA 正会員会社から様々な意見や要望等を伺ったところ、どの地域からも各旅行会社で導入されつつある「添乗員の労働時間」に関する意見や要望等が下記のとおり多く寄せられた。

### 【添乗員の労働時間関連】

**Q1** 大手旅行会社は一定の理解があるが、中小の旅行会社は従来の「みなし労働」を適用している。協会から全ての旅行会社に添乗員の労働時間管理を要請して欲しい。

**A** 協会としては具体的企業名、担当者名を申し出てもらえれば直接当該派遣先に書面送付をした上で協力要請を行ってゆく。

**Q2** 労働時間の算定基準が旅行会社によってまちまちなので、統一ルールを適用できないか。

**A** 協会として審議した結果をまとめた資料はあるが、あくまでも派遣先の現行実態を基準に算定すべきであり、基準の無い場合に活用して欲しい。

**Q3** ツアーによっては労働時間が短縮されるため、添乗員にとって減収となり不平不満が出る。

**A** 実労働時間を管理する結果として生ずる現象であり説明説得が必要。

**Q4** 事務派遣に比べ安いので料金見直しをお願いしたい。

**A** 協会としては世論づくり、環境づくり等はできても個別派遣料は「B to B」の交渉ごとと考える。

### 【その他】

**Q1** 労働者派遣法が改正されると業界はどのような影響を受けるか。

**A** 法改正に関しては今国会で審議されているが、当業界にとって影響が一番大きいのは、「人に対して同一派遣先への派遣3年上限」であるが、厚生労働省とは何度も意見交換をしているところであるが、今後、法改正が確定した後、業界にとって最適な運用を図るための方策等について、厚生労働省と意見交換を行う予定である。なお、「日雇い派遣」については、専門 26 業務が撤廃になったとしても 17.5 業務は継続される為、現行どおりの運用が図れることとなる。

**Q2** 主任者証の発行に関して、移籍者で、20年以上前に資格取得した者の新規発行の場合、旅程管理研修修了の証明はできるものの、実務経験の証明が前社に残っていないケースがあり、その場合、所属した派遣元で証明することで対応できないか。

**A** 観光庁にも相談をしたが、旅行業法上、「旅程管理研修修了日の前後1年以内に1回もしくは修了後、3年以内に2回」の時のものが必須であること、かつ、現在の所属会社ではなく、あくまでも実務経験を実施した会社の証明が必要とのことで、観光庁からも適正に管理するよう指示されている。ただ、添乗レポート等、当時のものを提出できないような場合は、協会で作成した「実務経験証明書」に実務経験実施会社の証明をもらうことで対応している。

添乗員の労働時間管理は未だ緒に着いたばかりで、改善課題も多々有ると考えられることから今後も、コンプライアンス推進委員会が中心となって検討してゆく。

現場の添乗員が、添乗現場で最近感じることやエピソードを自由に寄稿いただくコーナーです。  
 ～添乗の現場から～ 第9回

## 「未来の添乗員」



添乗

あれこれ

仕事のやりがいに「人との出会い」と答える添乗員は少なくないでしょう。私にも素敵な出会いがありました。家族でご参加の6年生のお嬢様。ツアー中、沢山の質問をしてくれます。

「好きな国は？」

「なぜ添乗員になったの？」

そして空いた時間におしゃべりするのが日課となりました。

「この子は将来添乗員になりたいの。」とお母様。

「添乗員の良いところは？」バスの中でも質問されます。

それはね、世界中を見て美味しい物も食べられる、多くの方と出会い感動もある。

…でもどれも月並みな答です。お客様は皆、目を閉じお休みに。ならば、少し手の内を明かしてもいいかしら？

「普通は職場に苦手な人がいてもずっと一緒でしょ？でも添乗員だと旅行中だけだから、笑顔で頑張れるの。」

すると寝ていたはずのお客様が笑っています。

「参考になります。」彼女の真面目な返答に大人はさらに大笑い。

あの時の彼女とのやり取りは、私を初心に帰らせてくれる大切な思い出となりました。

(株)旅行綜研

しまぎき ゆい  
 添乗員：嶋崎 由衣さん



## 2000日添乗員のコツコツ奮闘記

連載 53

### <目をつむって聞いて欲しい……>

(株)フォーラムジャパン

添乗員：久保田 一弘さん



人から褒められて一番嬉しいのが、「声がいいですね」という言葉をいただく時です。声質の良さは親に感謝すればよいのですが、

添乗の仕事においてはそれに加え高度な話術を体得することが肝要と心得ています。話の内容もさることながら、スピードや抑揚、日本語の正確さ、言葉から伝わる温かみ、……。この仕事でこれらを操ることは実に重要なことです。それだけに、私は移動のバス車内や観光地などでの案内業務においても、お客様が興味を示し、かつ、理解し易いような話の組み立てを常に意識しています。既成の資料や原稿に囚われず、自分の言葉で朗朗と語るイメージでしょうか。ツアー中は早起きをし、その日に喋る事柄を纏め上げることから私の1日が始まります。

また、対客電話を制すれば自ずとツアーは成功するというのが私の持論です。電話の声の印象がそのまま受け手の第一印象になるのですから気を抜けません。ツアー開始前のワクワク感を煽動

するという意味では、まさに腕の見せどころです。先手必勝ですね。何かと緊張やストレスを感じる人が多いツアー中に、私の声がお客様の安らぎの一助となれば幸いこの上ありません。

最後に、私の声はよくラジオ向きだと言われます。これって、顔はNGということでしょうか……。掲載されている顔写真は見なかったことにして下さい。



## フェイスブック (face book) を開設しました！

TCSA の face book ページ（「地球まるごと私の仕事場」）をこのほど開設しました。これまでのホームページやメールニュースと併せて、TCSA から研修やセミナー、イベント等の最新情報やコンテンツをお伝えします。

すでにフェイスブックをお使いの方はぜひ「いいね!」をお願いします。

TCSA フェイスブック：

<https://www.facebook.com/tcsa.or.jp>



## 「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2015 表彰式」& 「ツアーコンダクター職業フェア」開催予定

今年も東京ビッグサイトで実施される「ツーリズム EXPO ジャパン」の業界日に吉村作治選考委員長ご出席のもと開催します。

詳細は別途お知らせいたしますが、下記日時で実施しますのでご予約ください。

【開催予定】

日時：平成 27 年 9 月 25 日（金）

16:30～17:00 ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2015 表彰式

17:00～18:00 ツアーコンダクター職業フェア

場所：東京ビッグサイト 東3ホール「Japan ステージ」

表彰式では、グランプリ（国土交通大臣賞）、準グランプリ（観光庁長官賞）、選考委員会委員長賞、TCSA 会長賞を受賞された添乗員の方々を表彰し、それぞれの添乗員から受賞の喜びのコメントをいただきます。

職業フェアでは、3名のプロの添乗員の方からの体験談や質問コーナーを設け、皆様からの質問に添乗員の方が直接回答いたします。

添乗員の方々から直接話が聞ける貴重な機会ですので、是非ご参加ください!

### 会員動向

#### ●代表者変更（順不同・敬称略＜＞内は前任者）

（株）日旅九州エンタプライズ  
代表取締役社長 河村 満＜加茂 民雄＞

ジャパNSTAFF（株）  
代表取締役社長 藤本 敬三＜藤本 和子＞

#### ●住所変更

キャリアロード（株）ブローリア東京  
新住所：〒273-0031 千葉県船橋市西船 4-12-10 早稲田 13 時ビル 6 階  
新電話番号：047-401-3113 新 FAX 番号：047-420-1208

#### ●営業所開設

（株）ヒト・コミュニケーションズ 沖縄営業所  
〒900-0032 沖縄県那覇市松山 1-1-19 JPR 那覇ビル  
電話番号：098-963-9003 FAX：098-963-9089

### ○○○○ 編集後記 ○○○○

長引く円安に加えギリシャ問題やテロのニュース、と海外旅行意欲を減退させる要素が多い中、訪日客は増加の一途を辿っています。成田国際空港の利用客もついに日本人より、外国人が上回ったと報じられていました。TCSA も今年はインバウンドスタッフの育成に力を入れてまいります (S.M.)。

一般社団法人 日本添乗サービス協会  
〒105-0014 東京都港区芝 1-10-11 コスモ金杉橋ビル6階  
TEL(03)6435-1508・FAX(03)6435-1509  
E-mail [tcsa@tcsa.or.jp](mailto:tcsa@tcsa.or.jp)  
URL <http://www.tcsa.or.jp/>